

不高第174号
令和2年11月19日

岐阜県教育委員会 様

岐阜県立不破高等学校
校長 大橋 雅之

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和2年度学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和2年10月29日(木)
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者 委員 竹内 治彦 岐阜協立大学学長
和田 満 垂井町教育委員会教育長
中川 敏之 関ヶ原町教育委員会教育長
長谷川 妙子 関ヶ原町教育委員
林田 力 不破中学校校長
小川 美紀子 宮代保育園・幼稚園園長
田宮 仁史 特別養護老人ホームいぶき苑施設長
中村 美幸 地域住民
高木 佐知子 地域住民
高木 淳一 不破高校PTA会長

コミュニティスクール協力推進員

後藤 省治 垂井町議会議長

学校側 大橋 雅之 校長
橘 博 教頭
臼井 澄人 教務主任
鈴木 孝慈 生徒指導主事
岩田 眞和 進路指導主事

5 会議の概要（協議事項及び委員の意見等）

（1）【コロナ禍における地域連携の在り方(方策)について】

- ・連携行事の中止や延期、方策の変更等、適切に対応されていると考える。
- ・この状況下でも、何とか地域連携を進めようという姿勢に感心する。
- ・このテーマの視点で、本校の取組及び成果や課題がまとめられているとよかった。
- ・何が大事なのか見極めて、実施可能な活動を熱心に推進しようとしている。
- ・生徒一人ひとりの進路を大切に、関係機関と連携して、様々な指導や活動を展開しようとしている。特に、地元企業や岐阜協立大学との連携は、不破高校ならではの特色である。
- ・地元施設や事業所と積極的に交流するため、あらゆる方法を見出している。心の通った活動から得られるものは大きい。
- ・中学校での高校説明会に校長や教頭が出向き、PRに努めていることから、熱意が伝わった。ちゃんと知ってもらうことが大切である。
- ・「垂井まちラボ」との協働による若者まちづくりの様々な活動について、全校生徒への説明、広報、活動紹介、参加者募集というステップがきちんと位置付けられており、とても良い。
- ・できる範囲で工夫しているところが良い。
- ・例年のような交流をもつことができずとても残念である。しかし、オンラインでの交流を提案していただき、園児と高校生がどのような反応をするのか楽しみである。
- ・多く的人数で直接会うことは難しいが、今後も状況を見ながら交流を行っていきたい。
- ・本校生徒のボランティア訪問を毎年大変楽しみにしている。孫世代の生徒とのふれあいは気持ちの活性化に大変効果があると思いき、来訪を期待していた。しかし、感染症の重症化リスクや、面会制限の通知を考慮し、現在は家族以外との接触を一切断っている。
- ・オンラインでの家族との面会や、苑内でのイベント実施及びWeb会議システムでの生配信など、入居者が閉じこもり状態にならないように配慮している。本校生徒の手作りレクリエーショングッズ等をあらかじめ貸していただき、オンラインで双方向の遊び方指導をしてもられないか。
- ・各種行事が中止されているが、「with コロナ」で方法を工夫したり、規模を縮小したりするなど、知恵を絞って少しでも実施してもらいたい。本校はよく工夫されている。
- ・外部団体と交流するには多くの課題があると思うが、人と人との交わりの中で生まれるものにこそ価値があるので、顔や表情が見えるオンライン等での交流実践に期待する。
- ・「垂井まちラボ」に先生も一緒に参加することが、生徒への大きな後押しになっている。
- ・充実した活動報告を見て感心した。
- ・垂井町にはNPO法人「子供見守り隊」があり、毎日パトロール活動をしているので、同乗体験をしてはどうか。
- ・町内の企業の説明会や見学会を充実し、高校生に地元企業の魅力や存在価値をアピールしてはどうか。

（2）【学校運営全般について】

- ・様々なことに対して細かな配慮をしながら、学校運営にあたっていることがうかがえる。
- ・生徒の出席状況や保健室利用状況を基に、どのような指導をしているのか。また、指定事業の取組の様子や成果について、説明があるとより理解できる。
- ・文化祭の開会式及び全校鑑賞に参加した際に、生徒の表情が柔らかく、落ち着いた雰囲気

あって良かった。さわやかな挨拶もしてもらった。

- ステージでの挨拶や企画発表にじっと耳を傾け、みんなで明るく楽しい文化祭にしようという気持ちが伝わった。
- 吹奏楽部は、仲間と心を一つにして素晴らしい演奏をしていた。会場の生徒全員が演奏を楽しみながら、高まりゆく本校を重ねて誇りに思ったのではないか。
- 文化系部活動や運動系部活動の活躍は、校風をグングン高めていくエネルギーの一つである。教員の熱心な努力に感謝する。
- 生徒一人ひとりを大切にされた学校運営に感謝する。
- 「垂井まちラボ」のLINEスタンプ作成で、生徒が地域活性化に興味を持ち、まちづくり活動に参画することで、活性化につながることに期待する。
- 現3年生の進路選択について苦労があったと思う。学校見学ができず、大学の様子を実際に見て考えることができないため、進路を決めかねている進学希望生徒もいるのではないか。
- 就職希望生徒についても、会社自体の経営が苦しい中、就職先は十分あるのか心配である。生徒一人ひとりに納得できる進路先が見つかり、胸を張って社会へ出ていけることを願う。
- 長期欠席者が昨年度比で著しく減少していて、好ましい傾向である。この要因はコロナ禍の影響が大きいのか、スクールカウンセラーの配置の効果によるのか。
→コロナ禍による臨時休業が長かったため、学校へ行きたいと思ってくれたのかもしれない。特に1年生は昨年度と比較して非常に少なくなっている。また、スクールカウンセラーは以前からほぼ毎週1回配置されているので、利用頻度も高くなっており、継続的な効果があると考えられる。
- 個を生かし、伸ばす試みが十分なされていて、素晴らしい。
- 演劇ワークショップに興味がある。相手の気持ちを理解したり、自己表現したりするのにとても有効であると思う。ぜひ一度見学したい。
- 様々な事業や行事が延期や中止になる中、生徒が少しでも参加できるような方法を選択及び模索し、再提案や再計画をしているようで、実践の確かさを感じている。
- 今後の人口減少、労働人口不足への対応として、外国人労働者が増加することが予想される。特徴ある高校として、外国人生徒のために日本語学科を設置してはどうか。
- JR垂井駅近くに学校を建設することが、学校の魅力となると思う。

6 会議のまとめ

今般のコロナ禍を考慮して、第2回も書面開催としたが、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただくことができた。

いただいたご意見を参考にしながら、新型コロナウイルス感染防止に留意した上で、個々の生徒の自己実現を図るためにも、地域連携事業などできるだけ多くの行事に取り組んで参ります。